

2023 年度関東ブロック役員交流会報告

記録：安彦秀夫（千葉県連：東葛山の会）

日 時：2023 年 9 月 2 日（土）10：00～19：00（受付 9：30 開始）

場 所：日本勤労者山岳連盟事務所 1 階会議室

主 催：千葉県勤労者山岳連盟

参加者：埼玉 3 名、神奈川 3 名、栃木 1 名、群馬 3 名、茨城 2 名、東京 3 名
(22 名) 千葉 7 名（廣木、野田、具志堅、菅井、小林、田中、安彦）、山梨 0

式次第：①開会宣言・スケジュール説明（千葉県連 野田理事長）

②主催者挨拶（千葉県連 廣木会長）

③各連盟からの報告・質疑応答

④意見交換・課題討議（組織強化、全国連・関東ブロックへの要望等）

⑤まとめ、写真撮影、交流会

⑥閉会挨拶（野田理事長）



（写真提供：東京都連 栗原事務局長）

千葉県連の野田理事長より「開会宣言」と「本日のスケジュール説明」があり、続いて千葉県連の廣木会長より「主催者挨拶」がありました。

参加者各自からの自己紹介（氏名、地方連盟、役職など）後に、事前に提出された報告書（資料）をスクリーン（実際は事務所壁）に投影して、報告が昼休みを挟んで7地方連盟から行われました。

★各地方連盟からの報告（10:15～14:30）（報告順）

<1> 埼玉県連（瀬下理事長）

- ① 海外登山実施（4月～5月）
インドヒマラヤ：ガンゴトリ山群に登山隊とトレッキング隊を派遣
- ② 登山祭典実施予定（10月21日（土）～22日（日））
長瀬荘にて。ハイキング（8コース）、セルフレスキュー講習会、BBQ交流会、山本宏之氏（全国連盟理事）講演会などを実施予定<各連盟から1名招待>
- ③ 冊子『埼玉の山旅おすすめルート』を編集中（2024年3月発刊予定）
- ④ 遭難防止・安全教育の一環として『セルフレスキュー研究会』を設立
- ⑤ 各会HPリンクの『名刺大チラシ（QRコード付き）』の作成・配布
- ⑥ 『労山リーフレット』を県連盟として依頼
- ⑦ 全国連盟や関東ブロックで、若い会員が交流できる魅力的な機会を増やして…！

<2> 神奈川県連（渡辺会長）

- ① 読図、気象基礎、クライミング、ファーストエイド・セルフレスキューなどの講習会実施（救命訓練講習用にCPR:訓練用ダミー人形を購入）
- ② 丹沢クリーンハイク、石巻ボランティア活動、山小屋に泊まろう活動、自然観察・里山散策の実施
- ③ バードウォッチングの実施（日本野鳥の会の講師指導で毎月開催）

<3> 栃木県連（八木澤理事長）

- ① 市民向け公開ハイクの実施（2022年11月3日）
- ② 『栃木の山グレーディング』策定に関与
- ③ 新聞記事などから「ヒヤリハット事例」の収集と周知の徹底
- ④ 安全登山講演会実施（講師：花谷泰弘氏）、
救助技術交流会実施（鹿沼岩山・古賀志山）ハイキングセミナー実施（4回）
- ⑤ 足尾の植樹や那須クリーンキャンペーンに参加、クリーンハイク実施
- ⑥ 栃木県と協定し、日光山城の登山道整備や避難小屋の維持管理

<4> 群馬県連（岩崎教育部長）

- ① ロープワーク講習会、尾瀬自然勉強会、谷川岳クリーンハイク、山の日イベント、セルフレスキュー講習会、ぐんま県民ハイクなどの実施
- ② 新会員に対してLINEでのフォローや希望山行の企画、労山加入の利点の啓蒙、
- ③ 会員募集の展開（公民館での行事・講習会開催、群馬県イベントでのチラシ配布、近郊の山での声掛けなど）
- ④ 講師派遣制度の利用（段取りが難しかったが講師の依頼ができた）

（昼食・休憩）11:45-12:50

<5> 茨城県連（高橋理事長）

- ① 会員拡大・維持に向けての活動の実施（繰越金有効利用：前回総会で決議）
 - ・『ハイキング ABC 最新版』の加盟全会員への配布
 - ・クリーンハイク雨天中止に伴い、加盟全会に『デジタル計量器』を配布
 - ・県連盟行事参加者への参加費補助（一人1回当たり1,000～2,000円）および行事開催地域の地形図無料配布
 - ・スノーシュー無料貸し出しの実施（アイゼンやピッケルも検討中）
- ② Zoomでの理事会や委員会を公開（会員誰でも参加できるように呼び掛け）
- ③ 『山登りを諦めない』をスローガンに『県連活動が面白い』の啓蒙活動展開および合同山行の実施
- ④ 加盟会への活動（特に教育）や事務処理（労山基金手続きなど）のバックアップ
- ⑤ 定期的に開催できる初心者岩登り講習用の適切な場所を探索中
- ⑥ 自然観察会や他地方連盟行事などへの参加呼びかけ、県連理事選出基準の見直し、講習会などでの講師手当支給などを検討中

<6> 東京都連（栗原事務局長）

- ① 東日本大震災復興支援、遭難対策研究集会、東京登山学校、救助隊勉強会、クリーンハイク・自然観察会、三つ峠アツモリソウ保全活動等の実施
- ② 地区連盟の役割の再確認と整理の実施（懇談会開催予定）
- ③ 一般登山者に労山を知って貰う方法を模索中（腕章着用、横断幕作成など）

<7> 千葉県連（野田理事長）

- ① 県連所属会員の年齢構成の推移調査の実施とグラフ化（高年齢層増加傾向）
- ② 房総ロングハイク、初級クライミング講習、磯根海岸クリーンハイク、ネパールトレッキング、オンライン講習会などの実施
- ③ 房総の山復興プロジェクトへの参加（台風被害の登山道などの復旧活動）
- ④ 会員拡大・組織強化・地域社会との連携などの具体策の検討・推進
- ⑤ 会・県連単独でできない技術講習などの継続的な支援を全国連や関ブロに期待
- ⑥ 事務連絡などをタイムリーに確実に実施することを全国連に期待

（休憩）14:30-14:45



★意見交換・課題討議（14:45～16:30）

千葉県連の廣木会長より、『2013年～2022年の会員数・会数・会員平均年齢・退会理由などの推移データ』より、次のような報告・提案がされました。

多くの会では運営が厳しく会独自の会員獲得は厳しい状況で、上部組織は下部組織への支援を徹底し、中間組織（関東ブロックなど）も従来の交流主体から下部組織の力になる活動を最優先する必要がある。会員拡大は、関東ブロックで独自の方針を打ち出し取り組む必要がある。現状を見た場合、5年後はまあまあかも…、でも10年後はどうなっているか大いに不安である。意見交換（討議）していただきたい。

これを受けて、各地方連盟からでた主な意見は次のようなものでした。

① なぜ会員拡大が必要か？

- ・年間活動運営の財源確保や安全登山啓蒙などを組織的に行うために必要である。
- ・会員獲得は組織強化につながる。危機感を持って拡大に取り組む必要がある。
- ・子供のころから山に親しむようにしたらよいのでは…（キャンプなど）。
- ・年齢が進むにつれ山に行くことが体力的に厳しくなり、山行計画書に対してアドバイスをしたり、保育園などの登山スタッフとして自然の説明をしている。

② 以前は、労山基金はダントツに優位性があったが、最近は薄れてきているのでは？

- ・労山基金のメリットを明確にし、アピールする必要がある。
- ・お金以外でメリットを出す必要がある（安全登山講習会の開催など）。

③ 「労山だからできること、労山しかできないこと」などの「労山の魅力」をPRする必要があるのでは…。労山の認知度をアップさせる必要があるのでは…。

- ・昔は、「仲間が欲しい」と入会してきたが、今はネットで繋がり飲み仲間もいるので敢えて山の会に入会する必要性を感じない…という若者が増えてきているようだ。しかし、登山技術の未熟さに気が付き、技術指導力のある会に入ってくる人が出てきているようだ。

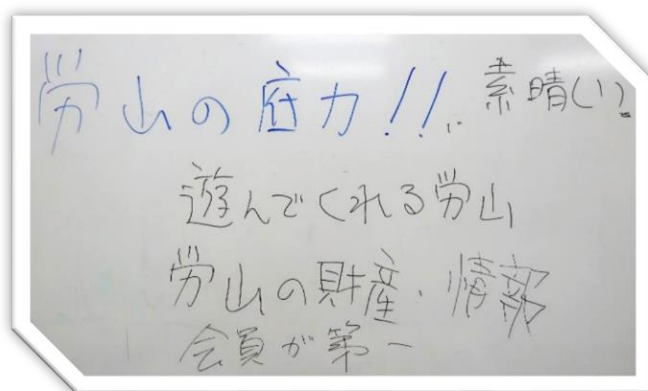
④ 県外参加（地方連盟を越えた参加）の呼びかけ、地域社会とのつながり、一般向けの講習会開催などに積極的に取り組む必要があるのでは…。

★写真撮影・懇親会（17:00-19:00）

参加者全員が揃っての記念集合写真を撮り、自己紹介（一言発言）をしながら和気あいあいと情報交換をしました。

その中で、「労山の魅力とは一言で言うと何だろう…？」ということになり、色々な意見が飛び交いました。

後ろ髪をひかれる思いで交流会が終了となり、片付けを済ませ19:00に全国連盟事務所を後にしました。



参加者が思い思いに

『労山の魅力』を書き込みました！